



SAAJ本部 主要部会・研究会ご案内資料

(2023年度) 関東地区主催 会員向け SAAJ活動説明会
2023年11月4日(土) 開催
にての説明資料

認定NPO法人日本システム監査人協会

1. 基準改訂委員会（主査：松枝憲司）

(1/2)

基準改訂委員会の目的

- ①経済産業省が公表している「システム監査基準・管理基準」とその実施方法や着眼点を記載したシステム監査・管理基準ガイドライン等を策定・更新して公表する。
- ②本ガイドラインの広報と普及活用を図ることでシステム監査人及び本協会の認知度の向上等を図る。

1. 活動の概要、体制等

1. システム監査・管理ガイドラインの策定と公表及び普及活動
2. 事業体制
 - ① テーマ別ガイドラインの作成
 - ・ 日本システム監査人協会
 - ・ システム監査学会他
 - ② 研修セミナーの開催等

基準改訂委員会（2023年度の活動メンバー）

主査：松枝

メンバー：SAAJ会員8名 テーマ別ガイドライン策定等に向けて新たに募集

基準改訂委員会 活動実績（2023年10月末現在）

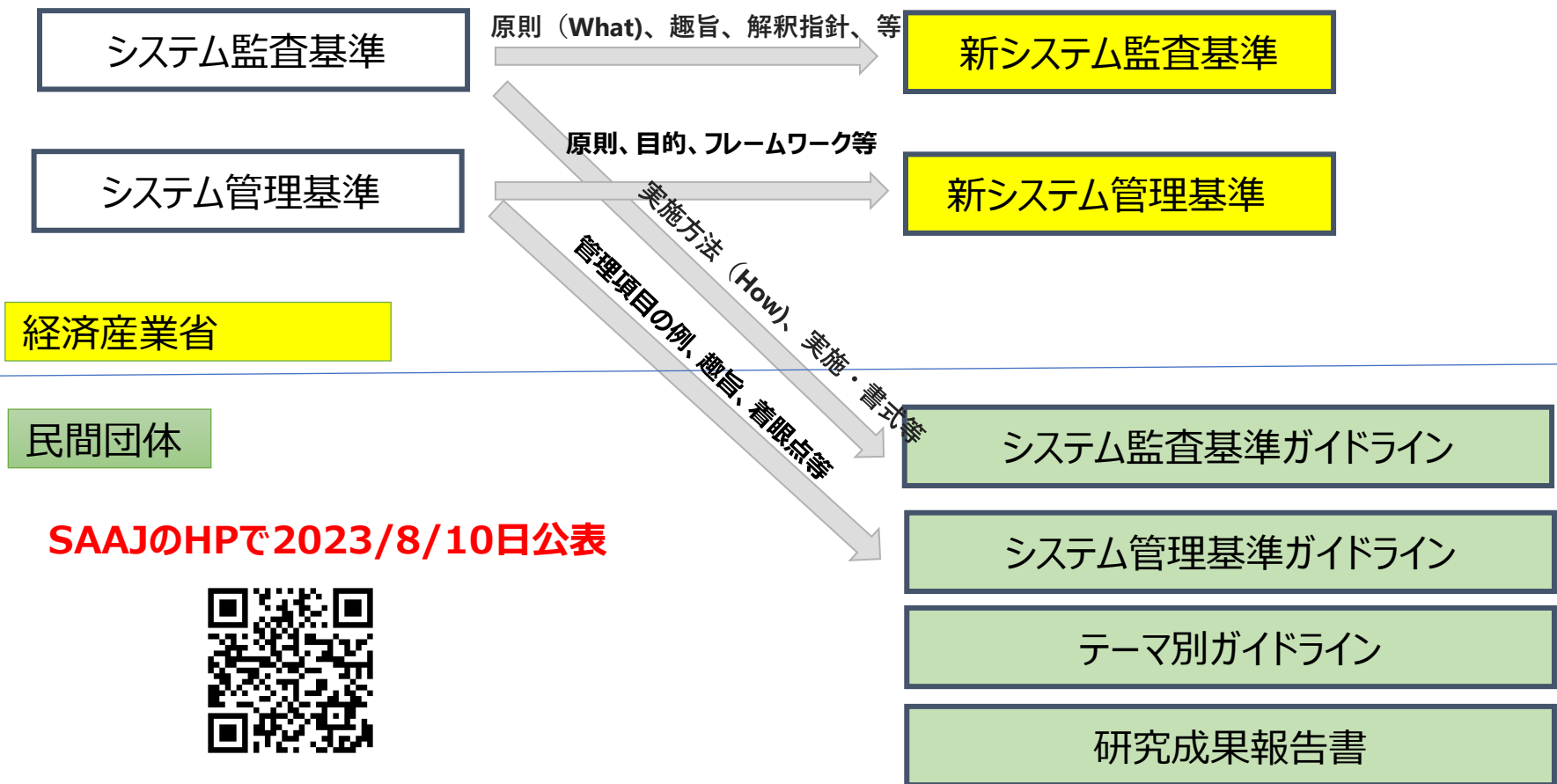
- システム監査基準・管理基準（令和5年版）の原案作成と公表（経産省4月）
- システム監査・管理基準ガイドライン（案）の公表とパブコメ募集（5月）
- システム監査・管理基準ガイドラインVer1を日本システム監査人協会HPより公表（8月）
- システム監査・管理基準ガイドラインの活用に関するセミナーの開催（関係団体）（9月）
- テーマ別ガイドライン案の検討開始（10月）

お問い合わせ https://www.saaj.or.jp/toiawase/saaj_toiawase.html

【参考】基準・ガイドラインの所管、メンテナンス主体

(2/2)

- システム監査基準及び管理基準本体は経産省が管理更新を担当する。
- システム監査基準ガイドライン及び管理基準ガイドラインは、連絡会参加団体にて協力して管理更新する。代表団体は日本システム監査人協会（SAAJ）が務める。



2. CSA利用推進グループ（主査：斉藤茂雄）（1/2）

CSA利用推進Gの目的

- ① 協会の認定資格であるCSA・ASAの社会的な認知度を高めるための諸活動を推進
- ② 上記のために、CSA・ASAの力量向上に資する活動を推進
- ③ CSA・ASAのコミュニケーションの活性化を支援

活動の概要、会議頻度等

- CSAフォーラムの開催
（講師を招き、勉強会形式の研修会をオンラインで開催、対面の時は懇親会も実施、3～4ヶ月に1回の開催目標、1回2H）
- CSA利用推進に関する広報（DM等）
- メンバー会議（不定期）
- CSA交流会（過去1回開催）
- その他

CSA利用推進Gのメンバ

主査：斉藤茂雄（副会長）

メンバ：億谷和彦（理事）、大西智（監事、オブザーバー）

CSA利用推進G 活動実績

● CSAフォーラムの開催：2008年9月より通算41回開催

※CSAフォーラムはCSA・ASAの皆様が、「システム監査に関する実務や事例研究、理論研究等」を通して、システム監査業務に役に立つ研究を行う場です。CSA・ASA同士のフェイスtoフェイスの交流を図ることにより、相互啓発や情報交換を行い、CSA・ASAのスキルを高め、よってCSA・ASAのステータス向上を図ります。

● 主要自治体向け「入札条件に関するお願い」DM発送（2023年11月ごろ予定）

● 「公認システム監査人のご紹介」（リーフレット）をリニューアル発行（2017年10月）

2. CSA利用推進グループ（主査：斉藤茂雄）

（2/2）

課題等

- 官公庁、地方自治体等の一部にCSA・ASAを認知されつつあり、CIO補佐官の登用等がありますが、一層の推進が必要です。
- CSA・ASAの知名度向上のための施策アイデアがあればご提案を歓迎します。
- CSAフォーラムの発表者を募集中です。1～1.5H発表いただいて、参加者で内容について意見交換します。テーマは特別設けていません。活動時間はCSA・ASAの継続教育時間として充当可能です。

公認システム監査人（CSA）、システム監査人補（ASA）の募集について

- ❑ 2024年春期の募集期間は、**2024年2月1日～3月31日** となります。
- ❑ 資格取得をお考えの方は是非この機会にチャレンジをお願い致します。
- ❑ 同僚や部下にまだCSA・ASAを取得していない方がお出でなら、是非勧奨お願いします。
- ❑ ご不明の点は協会HPの問い合わせ画面（下のURL）からお問い合わせください。

お問い合わせ https://www.saa-j.or.jp/toiawase/saa-j_toiawase.html

お問い合わせ https://www.saa-j.or.jp/toiawase/saa-j_toiawase.html

3. 月例研運営委員会（主査：戸室佳代子、副主査：豊田諭、億谷和彦）

月例研運営委員会の目的

- ① S A A J 会員向けに、システム監査に役立つ幅広く専門的な知見を提供するために、月例研究会を運営しています。
- ② S A A J 非会員の方々にも月例研究会の場を提供し、S A A J 活動を知り、入会のきっかけとしていただくことも目的としています。

月例研究会参加のメリット

- システム監査に必要な幅広い専門分野について有識者から詳しく講演を聞くことができます。質問もできます。
- システム監査に関する重要テーマや動向を知ることができます。
- リモート開催なので、どこからでも参加できます。

月例研究会 開催実績（開催形態：年10回 2時間/回 リモート開催）

- ❑ 第272回（11月）IPA「組織における内部不正防止ガイドライン」の構成と
第5版改訂のポイント
- ❑ 第273回（12月）DX時代におけるプライバシーガバナンス政策の最新動向と実践事例
- ❑ 第274回（1月）デジタル社会を支えるトラストサービスのあり方
- ❑ 第275回（3月）テキストマイニングによる内部監査高度化の可能性
- ❑ 第276回（4月）デジタルスキル標準を含むデジタル人材育成と企業DXの推進施策
- ❑ 第277回（5月）自工会／部工会 サイバーセキュリティガイドラインVer.2について
- ❑ 第278回（6月）JUAS「企業IT動向調査2023」の結果からみるVUCA時代のIT部門の役割
- ❑ 第279回（7月）改正電気通信事業法（特に特定利用者情報規律及び外部送信規律）
- ❑ 第280回（9月）システム監査・管理ガイドライン活用のポイント
～システム監査・管理基準の改定とガイドラインの公表～
- ❑ 第281回（10月）ISO/IEC 38507－AIの利活用が組織のガバナンスに与える影響

4. 会報部会 (主査：竹原豊和、副主査：安部晃生、越野雅晴) (1/2)

会報部会の目的	活動の概要
① 会報が、会員やシステム監査人のコミュニケーションの場、また、情報交換の場となるように。 ② システム監査に関する啓発・広報活動の一翼を担うため。	● 毎月25日に発行し、協会のホームページに掲載する。 ● SAAJの会員及び研究会、部会、各支部から投稿記事を募集する。 ● 投稿記事には、匿名と記名投稿がある。 ● 会報の年間テーマを決めている。 【2023年：この変化の時代にシステム監査が目指すもの】

会報部会メンバ（直近1年間の活動メンバー）

主査：竹原豊和、副主査：安部晃生、越野雅晴

編集支援：松枝憲司(会長)、各副会長、各支部長

メンバー：金田雅子、坂本誠、辻本要子、豊田諭、野嶽俊一、柳田正、山口達也

会報部会 活動実績

- 会報1号は、1988年2月に発行されました。(当時は隔月発行、紙媒体、会員に郵送)
- 会報108号(2009年6月号)から電子版となり、郵送は廃止になりました。
- 2017年10月には、会報全号がバックナンバーとして閲覧できるようになりました。
- 会報は、毎月メンバー持ち回りで編集しています。
- 発行後、国立国会図書館に納本されています。
- 毎年総会で、投稿された記事から優秀記事を表彰しています。(通称:会報アワード)

4. 会報部会

(主査：竹原豊和、副主査：安部晃生、越野雅晴) (2/2)

会報記事募集内容

会報への投稿は、システム監査にとどまらず、情報社会の健全な発展を応援できるような内容であれば歓迎します。

- 巻頭言(SAAJ会長、副会長から投稿)
- 投稿記事「めだか」：エッセイ、思い
- 実名投稿：研究成果、エッセイ、思い
- 部会、研究会からの活動報告
- 書評、意見箱、投稿への質問
- 注目情報、協会からのお知らせ等

会報投稿のメリット

- SAAJ会員であれば、どなたでも投稿可能です。
- システム監査人としての思いが投稿できます。
- 会報を通して、自分の考えを、多くの人に知ってもらうことができます。
- 投稿された記事が、国会図書館に納本されます。

会報部会 その他

- ❑ 会報の編集に興味がある方、会報部会への入会を歓迎します。
- ❑ 会報部会に入会されても投稿が可能です。
- ❑ 2017年11月号(200号)に「会報に見る30年の歩み」が掲載されています。

連絡先

会報部会 主査 竹原豊和 宛 <mailto:saajeditor@saaj.jp>

5. 法人部会（主査：山口達也）

(1/2)

法人部会の目的

システム監査を業とする企業、およびシステム監査を実施し情報環境の健全化を図ろうとする企業が、協力して活動することによって、わが国におけるシステム監査の普及・啓発を図ること、そして、そのことを通して会員企業の事業の発展に寄与することを目的としています。

活動の概要、会議頻度等

- 法人組織におけるシステム内部監査業務や、外部監査人としての監査業務等、業務としてシステム監査を実施する上でのテクニックや各種情報交換を主な目的として活動しています。
- 2月、8月を除く原則毎月第2火曜日に定例会を開催しています。

法人部会メンバ（直近1年間の活動メンバー）

主査：山口 達也

メンバー（敬称略）：小野 修一、斉藤 茂雄、齊木 孔二、真鍋 直緒、佐々野 未知、
松井 秀樹、浦上 豊蔵、鈴木 章彦、勝部武樹 他

法人部会 活動実績

- オンラインミーティングを利用した定例部会運営の実施・範囲拡大の実施・定着化
- 地方自治体向け情報セキュリティセミナーの企画（2023/12再開予定）
- 地方自治体向け情宣活動（DM発送）の再開（2023/11発信予定）
- 情報セキュリティセミナー内容の改訂検討・改訂作業（適宜）
- システム監査普及にかかわる活動計画
- 協会会報における法人会員紹介記事掲載の掲載（適宜）

5. 法人部会 (主査：山口達也)

(2/2)

課題、募集内容、人数等

- 企業に属されている個人会員の方は、システム監査人協会の活動のメリットについて、是非とも、自社企業でアピールして頂き、法人会員としてご参加をご検討下さい。
- 起業されている個人会員の方も、法人会員のメリットや、システム監査の普及、啓発のため、是非、法人会員としてのご登録をご検討下さい。

法人部会参加のメリット

- 企業の規模によりますが、最大10名の方が、個人会員と同じ条件で、協会活動に参加できます。
- 法人会員企業の社員職員は、月例研究会講演に何人でも会員料金で参加できます。
- 現在検討・準備中の情報セキュリティセミナーの講師として活躍できる機会ができる予定です。地方自治体とのコネクション醸成に役立てて頂けます。

その他

- ❑ 部会後の懇親会、有志によるゴルフ会の実施等、メンバーが楽しく、ざっくばらんに意見が述べられるような雰囲気作りを、歴代主査の方々が築いてきてくれました。外部環境状況により活動を自粛していましたが、状況の好転を受け、順次、再開する予定です。
- ❑ 現状「システム監査」が定着している企業はまだ一部に限られていますが、もはや情報システム無しでなりたつ企業は存在しないので、「システム監査」は不可欠であり、今後も法人部会は、システム監査普及、啓発をテーマに活動してゆきたいと思います。

6. システム監査事例研究会 （主査：野田正勝） （1/2）

システム監査事例研究会の目的

システム監査の普及を目的とした監査普及サービスおよび各種セミナーを実施し、システム監査スキルの向上を図ります。

活動の進め方

- ✓ システム監査普及サービス…引合いの都度（ここ3年は毎年実施）
- ✓ システム監査実務セミナー…年2回
- ✓ システム監査実践セミナー…休止中
- ✓ 事例に学ぶ課題解決セミナー…休止中
- ✓ 普及サービスの実例、事例に学ぶ課題解決セミナーの実例にもとづく実務・実践セミナーの新教材の作成および講師の育成…通年
- ✓ 定例会…毎月第一水曜日

活動実績

- システム監査普及サービス約30例
- システム監査実務セミナー42回
- システム監査実践セミナー36回
- 事例に学ぶ課題解決セミナー22回

6. システム監査事例研究会 （主査：野田正勝） （2/2）

入会について

システム監査事例研究会は、協会の中でも、最も身近で実践的な活動を行っている研究会です。参加者の主体的な活動ができ、やる気次第で活動の幅は広がっていきます。

- 普段、システム監査に係わる機会のない方には、普及サービスの実施、セミナー教材の作成などの作業を通して、機会に触れることができます。
- セミナーの講師を行うことで、様々な受講者と交流を深めることができます。
- システム監査スキルの向上を目指した研究・学習活動ができます。定例会ではご自身で興味あるテーマを設定して発表・討論を行うことができます。
- 定例会開催後、懇親会を行い、交流を深めています（現在は休止中）。様々な情報交換の場となっています。

研究会メンバ（直近1年間の活動メンバー）

主査：野田正勝

メンバー：12名

お問い合わせ https://www.saa-j.or.jp/toiawase/saa-j_toiawase.html

7. 情報セキュリティ監査研究会（主査：舘岡均）（1/2）

情報セキュリティ監査研究会の目的

デジタル社会の発展、DXの推進、ならびにクラウド、IoT、テレワーク、生成AIの活用など、デジタル化および適用分野は急拡大している。すなわち、システム監査の対応すべき領域、業種、技術が進展しており、監査のリスクと対策の再認識、ルールの見直しが求められています。また、従来からセキュリティ事故やサイバー攻撃が続いており、大規模な被害が発生しています。このような状況下で、当研究会では、ITおよび応用分野、セキュリティ等に係る現状と動向について、範囲を広げて調査して俯瞰的に把握し、課題等についてを整理し、あるいは個別テーマとして研究し、これらを通じてシステム監査／情報セキュリティ監査に役立てることを目的として活動を進めています。

活動の進め方

- 各メンバーがITおよび応用分野、セキュリティ等について、各業界、諸団体、専門分野等のそれぞれにおいてトピックスを見つけ、あるいは現状と動向を調査して俯瞰的に把握して、システム監査／情報セキュリティ監査に役立てる。
- さらに現在あるいは今後着目する調査／研究内容、などを持ち寄って、課題等を整理する。
- これらを基に、各メンバーの得意分野あるいは興味を持つテーマをコアにして、「個別の研究テーマ」を適宜に定めて研究活動を進める。
- 必要に応じて、テーマに詳しい知験者（他団体、SAAJ会員など）に参加頂いて活動レベルの向上を図る。

<定例会>

原則月1回（第4木曜日） 18：30～20：30、協会事務所およびWeb会議を併用して開催します。

活動実績（テーマ）

- ✓ 2016年、2017年…「経済産業省・情報セキュリティ管理基準およびFISC安全対策基準の活用」、「大規模個人情報流出事案の原因究明」、「世界的な規模で発生 of ランサムウェア」 etc
- ✓ 2018年…「情報セキュリティサービス基準」、「FISC安全対策基準（第9版）」、etc.
- ✓ 2019年…「情報システム監査実践マニュアル（赤本）第3版・情報セキュリティ部分」 etc.
- ✓ 2020年…「政府情報システムのためのセキュリティ評価制度（ISMAP）」 etc.
- ✓ 2021年…「サイバーセキュリティ戦略」、「サイバーセキュリティ2021」、「セキュリティ向調査 - ランサムウェアの最近傾向と脆弱性対策としてのMITRE ATT&CKについて」 etc.
- ✓ 2022年…「サイバーセキュリティ2022」、「情報セキュリティ白書2022」レビュー
- ✓ 2023年…「サイバーセキュリティ2023」、ランサムウェア動向、各種規格・基準動向

研究会メンバ（直近1年間の活動メンバー）

主査：舘岡均

メンバ：13名、アドバイザー2名、

オブザーバー5名（長期休みの場合はオブザーバーに登録し、復帰時にはメンバーに登録できる。）

参加について

- メリットとしては、研究会のコミュニケーションで広い分野の知見が得られ、さらには、これまで自身で続けてきた研究成果を、発表、広報、等の機会が得られます。
- 次のような活動に賛同される方の参加を歓迎します。
 - ✓ 各メンバーがお互いの考え方を尊重することをベースとしてコミュニケーションを図り、全員参加型の活動を目指す。
 - ✓ 研究テーマの対象範囲が広いので、前述の＜活動の進め方＞のように研究活動を進めて行く。
 - ✓ 参加メンバーは、ITおよびセキュリティ等のトピックス、現状と動向調査、自身の研究内容などについて、研究会にて話題を提供する（月1回）。

8. ITアセスメント研究会（主査：松尾正行）

（1/2）

活動概要

ITサービスの提供者と利用者双方における適切な管理を維持・向上させる活動を、ITアセスメントととらえて、システム管理基準ガイドラインの活用に関する研究を行います。具体的には以下のテーマに取り組みます。

(1) ITガバナンスに関連する事項

- a) JISQ 38500：2015の活用と普及
- b) JISQ38503：2023(予定) の活用と普及
- c) ISO/IEC 38500 シリーズの改定プロジェクトに国内委員会SC40WG1を通じて参画
(ISO/IEC38500 は2023年8月：最終ドラフト(FDIS)投票を通過し、年内正式発行へ)

(2) システム監査/管理基準ガイドラインの活用法、テーマ別ガイドの研究等

システム管理基準ガイドラインを現場でより活用できるよう補足・改訂等を研究する本基準や赤本*の活用に興味がある方歓迎です。

(3) システム監査・管理基準改定委員会（SAAJ）およびシステム監査に関する検討会（経産省）への参画

システム監査関係団体及び経産省による本委員会に参画し基準改訂・基準ガイドラインの開発を推進した。

進め方

上記(1) (2)については1回/月の定例会を開催して検討結果を持ち寄っている。

研究会開催日時

1回/月の定例会を開催（ZOOM）

8. ITアセスメント研究会（主査：松尾正行）

(2/2)

活動実績

- 過去システム監査基準研究会として、「情報システム監査実践マニュアル（赤本）第2版」「IT統制監査実践マニュアル（黄本）」の発刊や「システム管理基準forオフショアVer1」の発表等、システム管理基準の活用に関する研究を中心に行ってきた。
- H30年4月に経済産業省の「システム監査基準とシステム管理基準の改訂委員会」に参画（2018年4月20日改訂版発行）
- 2020年6月に赤本*（3版）を出版した。
<https://www.saa-j.or.jp/shuppan/130903Akahon3Chirashi202104.pdf>
- R5年度の経済産業省の「システム監査基準とシステム管理基準の改訂委員会」に参画し、両基準（4月）及び両基準ガイドライン（8月）の発行に貢献した。
<https://www.meti.go.jp/policy/netsecurity/sys-kansa/>
<https://gl.systemkansa.org/ガイドライントップ>
- ITガバナンスのアセスメントに関するISO化（ISO/IEC38503）を支援した（2022/1発行）。
- JISQ38503の開発に参画した（2023年内発行予定）。
- ISO/IEC38500の改定プロジェクトに参画した（2023年末発行予定）



研究会参加のメリット

- ✓ ITガバナンスの基準に関する具体的な活用方法やITガバナンスをアセスメントする具体的な方法についての知見を獲得できる。
- ✓ ITアセッサとして、自身のビジネスの拡大に繋がる可能性がある。
- ✓ システム監査人として新たな活躍の場をメンバーとともに探っていきます。



お問い合わせ https://www.saa-j.or.jp/toiawase/saa-j_toiawase.html

9. 個人情報保護監査研究会（主査：斎藤由紀子）（1/2）

活動概要

個人情報保護監査研究会は、個人情報保護マネジメントシステム（以下PMSという）について、研究及び情報発信しています。

（1）個人情報保護監査サービス

これからPマークを取得される事業者、および更新審査を控えている事業者を対象に、経験豊富なPマーク審査員またはシステム監査人が、第三者として客観的な観点から「個人情報保護監査サービス」を提供します。詳細はこちら

<https://www.saa-j.or.jp/shibu/Kojin/kojinservice.html>

（2）「6ヶ月で構築するPMS」セミナーの開催

6か月で構築する「PMS実施ハンドブック」を用いて、セミナーを開催します。

- 基本コース：月1回 14時～17時（3時間）×6ヶ月
- 料金：100,000円(+税)/1名～（1社3名以上割引あり）
- 会場：日本システム監査人協会本部会議室（茅場町）/もしくは、Zoomリモート接続
- テキスト（別売）：6か月で構築する「PMS実施ハンドブック」V2 ¥3,520円
書店、もしくは「書籍注文書.PDF」をダウンロードし、FAX/Mailでお申込みください。

<https://www.saa-j.or.jp/shibu/Kojin/130703PMSHB2Chirashi.pdf>

（3）システム監査人の推薦

PMS構築やPMS監査に関する支援や相談を希望される事業者には、システム監査人推薦制度に基づき、講師やコンサルタントを推薦します。詳細及び申込み方法は、こちら↓

<https://www.saa-j.or.jp/csa/recommend.html>

個人情報保護マネジメントシステム構築・運用に関するQ&Aコーナー

- ◆質問は、お問い合わせへ https://www.saa-j.or.jp/toiawase/saa-j_toiawase.html
- ◆回答は、個人情報保護監査研究会メンバーが行います。
- ◆回答のもたらず結果について当協会及び回答者は責任を負わないものとします。
- ◆質問者の所属、氏名、メールアドレス等は回答に必要な範囲のみで使用します。質問及び回答については、質問者の組織、氏名を特定できないようにして、さらに内容を一般化して当ホームページに掲載することがあります。質問のメールは回答後、一ヶ月以内に削除します

9. 個人情報保護監査研究会 (主査：斎藤由紀子) (2/2)

研究会運営について

個人情報保護監査研究会は、PMSについて、JIS規格および、法遵守の観点から研究調査活動を行っています。Pマーク付与適格性審査や、事業者におけるPMSのさまざまな悩みから、課題を発見し、共通点を見出し、原因を追究し、対策を検討していきます。

各メンバーが興味のある研究テーマを選び、定例会だけでなく、メーリングリストを利用して、最新情報の共有、意見交換していきます。

また、社会的貢献の観点から、監査サービス、研修等PMS普及に取り組んでいます。

定例研究会：第3火曜日18:30～20:00 (Zoomリモート開催)

主な活動実績：

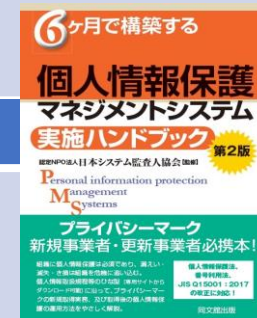
- ・ 2006年9月「PMS実践マニュアル」(緑本)出版以降、活動を停止していた
- ・ 2010年4月 個人情報保護監査研究会 再発足
- ・ 2014年12月 「PMS実施ハンドブック」(オレンジ本)出版。
- ・ 2015年9月～ 番号利用法の改正を反映。
- ・ 2016年5月～ 個人情報保護法改定を反映。
- ・ 2019年7月20日「PMS実施ハンドブック」(オレンジ本 第2版)出版
- ・ 2020年6月12日 保護法2020改正(2022/4/1施行)を反映
- ・ 2021年5月19日 保護法2021改正(2023/4/1施行)を反映
- ・ 2022年4月1日適用 プライバシーマークにおけるPMS構築・運用指針を反映



研究会メンバ (直近1年間の活動メンバー)

主査：斎藤由紀子 (副会長)、副主査：永井孝一 (理事)

メンバー：岡田和也、小川京子、五味巻二、斎藤茂雄 (副会長)、坂本誠 (理事)
田口喜久、成田佳應、林昭夫、道下健二、村上進司、吉谷尚雄 (近畿)



10. プロジェクト監査研究会 [PJA研] (主査 : 原田憲幸) (1/2)

(副主査 : 細川健一)

活動概要

- 「システム開発を成功させる」をメインテーマとして活動しています。
- (1)2015年～2017年度（プロジェクトマネジメントのシステム監査研究会）
「発注者のプロジェクトマネジメントと監査」（青本）2018年3月出版
 - (2)2018年～2020年度（プロジェクト監査研究会（PJA研）に改称）
「失敗しないシステム開発のためのプロジェクト監査」（緑本）2020年7月出版
購入者に「監査項目表（Excel版）」をダウンロード提供
 - (3)2021年～2023年。PJA研 : メンバから事例・動向・技法などを発表、議論
 - 分科会1「成功するプロジェクト監査分科会」
成功の鍵と事例、「監査項目表」の改訂(作業中)
 - 分科会2「DX分科会」: DXの推進、成功の鍵について議論



研究会の開催、体制、メンバー募集

- **PJA研** : 毎月1回(金)18:30～ 16名（本部13名、中部支部2名、近畿支部1名）
 - **分科会1** : 毎月1回(金)18:30～ 細川健一リーダ（理事）、大野勇進サブリーダ、他11名
 - **分科会2** : 毎月1回(水)19:00～ 園田博リーダ、他5名
- メンバ募集中**、ZOOMリモート会議、遠隔地の方も参加できます（補助教材:青本,緑本）

活動状況

(1)PJA研
2023年
(金曜開催)

第29回	2月10日	「サイバーセキュリティ」動向・対策・監査項目（発表：原田憲幸 理事）
第30回	3月3日	「新規ビジネスの取引プラットフォーム開発」（発表：細川健一 理事）
第31回	4月14日	「地域加工業者の共同受注システム構築のプロジェクト支援」（発表：大野勇進 氏）
第32回	5月12日	「マネジメントシステム監査と ITシステム監査の一体化」（発表：和手信泰 氏）
第33回	7月28日	「会計検査報告に見るシステム監査の観点」（発表：結城健一 氏）

10. プロジェクト監査研究会 [PJA研] (主査 : 原田憲幸 (理事)) (2/2) (副主査 : 細川健一 (理事))

活動状況

(1)PJA研 2023年 (金曜開催)

第34回	10月6日	「PJA研 分科会2 (DX分科会) 活動状況報告」(発表:分科会2リーダー 園田博 氏)
第35回	10月13日	「航空管制システム開発の課題と改善対策案・開発ベンダ編」(予定)(発表: 藤田博史 氏)
第36回	11月10日	「パッケージを活用した基幹系システム刷新の現状」(予定)(発表: 加藤智康 氏)
第37回	12月8日	「セキュリティバイデザインとプロジェクト監査」(予定) (発表: 戸室佳代子理事)

(2)分科会1:成功するプロジェクト監査分科会 2023年 細川健一リーダー(理事)、大野勇進サブリーダー、他11名 原則:金曜開催

第1回	2月22日	本年度の進め方 「監査本(緑本)の付録(監査項目表)をアップデートする」
第2回	3月17日	監査項目表の大項目(目次)の追加訂正の議論
第3回	5月8日	監査項目表の大項目(目次)の追加訂正の議論
第4回	5月26日	監査項目表 再編集版の議論
第5回	7月21日	監査項目表についてディスカッション
第6回	9月22日	監査項目表(改訂版)第1回レビュー
第7回	10月27日	監査項目表(改訂版)第2回レビュー(予定)
第8回	11月24日	監査項目表(改訂版)第3回レビュー(予定)
第9回	12月22日	監査項目表(改訂版)第4回レビュー(予定)

(3)分科会2:DX (Digital Transformation) 分科会 2023年 園田博リーダー、他5名 原則:水曜開催

第25回	1月18日	「中小企業DXの整理」
第26回	2月15日	「DXの推進・実施とアジャイルについて」
第27回	3月15日	「DXの中小企業進捗とシステムについて」
第28回	4月19日	「橋のヘルスチェック進捗報告」
第29回	5月17日	「事例:地域DX促進活動支援事業」 (発表: 大野勇進 氏)
第30回	7月19日	「DXの推進・実施とアジャイル」
第31回	10月18日	「DXに関して10月6日プレゼンの再確認」 (予定)
第32回	11月15日	「DX情報の提供」(予定)
第33回	12月20日	「DXとシステム監査の考察」(予定)
課外	1月25日	Project DS 第23回 日本型DXの成功には 業際・ハイブリッドがポイント
課外	5月10日	Project DS 第24回 プロモーションに おけるデザイン思考の考え方

